

(株)サニックス 2020年3月期第3四半期決算説明会概要

日時：2020年2月17日 13:30～14:20

場所：アーバンネット大手町ビル21階 LEVEL XXI 東京会館

代表取締役社長 宗政 寛

SE事業については、FIT制度が大きく変わっていくが、まだこれまでの制度下の案件で今後工事を行う案件も残っております。自家消費や蓄電池も織り交ぜて、環境負荷の低いエネルギーである太陽光を色々な方向に普及させていこうと考えている。

環境資源開発事業については、採算性と品質を重視したことにより、良い結果がでてきていると思う。時期を見ながら、受入数量も増やしていこうと思っている。

エネルギー事業については、やり方も確立してきたので、これから伸ばしていこうと思っている。

HS・ES事業については、提携等により、効率面で良い結果が出ていると思う。

人がとても大事な事業なので、管理職研修、新人研修、営業研修、技術研修等、人を育てることを目的に毎週のように研修を行っている。良い結果もでてきているので、これからもずっと続けていきたい。当社には、「仕事が教育で、教育が経営である」という経営理念がある。そうした研修を続けて、会社も個人も成長していけるような環境をつくることが第一だと思っている。

(以下、決算説明会での質疑応答の一部。)

Q： 環境資源について、廃プラスチックの受入単価の上昇はまだ続くのか。

A： 単価は四半期ごとに徐々に上がってきた。特に本年度に入って社会的に廃プラスチックの処理先を探すのが難しく、滞留していることもあり、市場の単価が大きく上がっている。プラスチックは、中国の廃プラの受入制限がはじまり、認知が広がったことが、単価が上がった一つの原因となっている。現状の計画では、これ以上上がることは想定していない。

Q： 廃プラスチックの受入数量について、既存の施設で受入の余力があるのか。工場の増設をする必要があるのか。

A： 廃プラスチックの受入は産業廃棄物処理施設許可をとって運営している。廃プラスチックの受入の需要が高いからといって、突然工場が増えたりすることはない。今ある工場の稼働率を上げるために設備の更新を行い、受入れられる量を増やしていく。

Q： コロナウイルスの影響はあるのか。

A： 現在のところ、当社の業績に影響はない。SE事業では中国で製造されたものを仕入れているので、納品が滞るようナリスクはある。

Q： 廃プラスチックの数量を今期から来期に向けてどのように増やしていくイメージを持っているのか。

A： 15 箇所の工場の設備更新は行っていくので、稼働率は上がっていくが、受入数量を極端に増やしても、在庫で貯める形になる。そうすると発電所の能力を上げる、または社外に売っていくということが必要になると思うので、今の段階では工場の設備の効率化によって、バランスを見ながら、数量を上げていくことが目標になる。

以上